

#子育て処方せん

心臓疾患 産前に発見

福岡市立こども病院の医師が子どもに多く見られる病気の症状や治療法などを説明する「#子育て処方せん」。今回は胎児循環器科長の漢伸彦医師に、子どもの心臓疾患と、その早期発見に役立つ胎児心エコー検査について聞いた。

胎児心エコー検査

胎児の心臓は妊娠5週頃には拍動を始める。妊娠20週頃に1円玉サイズまで大きくなり、超音波(エコー)での検査が可能となる。胎児に対する心エコー検査は、通常の妊婦健診で行うエコー検査と大きな違いはない。機器も同じものを使うが、通常の健診は5分で終わるところを30分ほどかけて詳細にチェックする。

以前は出産後に心臓の異常が分かり、緊急手術のため専門の病院に搬送している間に容体が悪化する例もあった。早期発見できていれば、手術の準備が整った専門病院で出産し、そのまま手術を開始することもできる。また、生まれてくるまでの期間を



漢伸彦医師

手術や転院 準備可能に

利用して両親らが疾患への理解を深め、転院や長期入院の支度を進めることも可能だ。胎児心エコー検査は通常の妊婦健診で行うエコー検査で異常が見つかった場合に勧められることが多い。心配であれば、かかりつけ医から特に指摘を受けていなくても、当院など対応している病院で検査を受けることができる。医療技術の進歩により、心臓の病気は助かる可能性が向上している。胎児期に見つけることで、その比率をさらに上げていくことが望まれる。

(聞き手・大森祐輔)

育児中の親にとって、見過ごしがちなになってしまふのが自分の健康だ。子どもと一緒に参加できる健康診断を導入したり、運動の習慣を身につける教室を開いたりする取り組みが各地で広がっている。

「お子さん、笑っていますね」。「ママ友健診」を行っている鹿兒島市の鹿兒島厚生連病院。昨年12月、健診に訪れた市内の主婦、二木清佳さん(41)に職員が声を掛けた。心電図検査の間、職員が長女・玲奈ちゃん(1)を抱っこしていた。



玲奈ちゃんを抱えながら採血を受ける二木さん(鹿兒島市内で)

健康診断 子連れもOK

ママ友健診は、子連れだと健診を受けにくいといった悩みに応えようと始まった。子どもも一緒に検査に回れ、受診中は一緒に来院した友人や職員がそばであやす。血液検査や診察など7項目あり、希望すれば乳がん検診も追加できる。2024年までの6年間で延べ約260人が利用した。二木さんは「6歳の長男が赤ちゃんの頃は預け先がなく、自分の受診を先延ばしにしていた。子どものためにも元気でいられるよう、今後も利用したい」と語った。

福岡市や大分県豊後高田市などは、健診時に無料で託児を利用できるサービスを実施。同県杵築市や福岡県飯塚市などは筑波大の協力を得て、妊産婦向けの運動教室を開いている。飯塚市の担当者は「自分の健康に目を向けることに後ろめたさを感じる親さえいるが、不調を見逃せば産後うつや疾病の進行にもつながる。健康な心身で、子育てを楽しんでほしい」と話す。

「#子育て処方せん」へのご意見をお寄せください。社会部のメール(s-syaka1@yomiuri.com)へお願いします。



インタビューの動画はQRコードを読み込んでください